

仮面ライダーの世界の
力をやろう…って言わ
れてもどうしろと？

アークス

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは謎の存在から仮面ライダーの世界の力をやろうと言われた男が翻弄されながら頑張るお話。

シリアスは仕事したりしなかったり。

初作品ですので、拙いとは思いますが、当方豆腐メンタルにつき、お手柔らかにお願い出来ると思います。

投稿ペースは早く無いかもしれませんが、宜しくお願い致します。

目次

| | |
|-------------|----|
| はじまりはじまり | 1 |
| 出会っ……てねえ! | 6 |
| なんじやこりやあ!? | 13 |
| これはもしかして | 20 |
| もしかしてやらかした? | 24 |
| 何故お前はここにいる | 30 |
| キャラ設定&報告 | 35 |

はじまりはじまり

俺、小此木 忍は仮面ライダー等の特撮やアニメが好きでサラリーマンだった。

それがある日トラックに轢かれ、次の瞬間に白い世界にいれば、すわ異世界転生か！
と思つて喜んで仕方がないと思う。

だが、今俺の目の前に居るのは優しげなお爺さん神様でも、見目麗しい女神様でもない。
い。

こいつは……なんだろう？

見た目はどちらかと言えば仮面ライダードライブに出てきたシグマサーキュラーみたいな？

いや、もうちよいなんか違うような？

あー。

なんか仮面ライダーBlack RXにこんなん居たような？

クライス要塞に常駐してる……チャックラムだったっけ？

なんかその辺とかが混ざった感じのロボットっぽいのが目の前に浮いてる。

ちなみに俺がここに来てから1時間ぐらいは経ってるが、目の前のこいつはその間な

んの動きも見せない。

だからそろそろ動こうとした時だった。

「お前に仮面ライダーの世界の力をやろう」

ビクッ!?

「なん…な、な、な」

突然目玉つぼいのが光ながら喋りだした目の前のこいつに少しビビってしまったのは不可抗力だよな？

「お前に仮面ライダーの世界の力をやろう」

「ええと、それは転生特典って事で宜しいので？」

ちよつとまだビビりながら聞いてみるが、反応はない。

「そもそも、君は何者？」

状況的に神様チックな方で合ってます？」

質問にも無反応。

どうしよう？

手詰まり感が半端ない。

「お前に仮面ライダーの世界の力をやろう」

どうやらこちらが正解の反応をしないといけない…のかな？

「お前に仮面ライダーの世界の力をやろう」

「わかりました。頂きますから何をすればいいのか教えて下さい。」

すると、今までは言い終わると光も一旦収まり黙っていた目の前のこいつが、目玉っぽいのを光らせたまま返事をしだした。

「お前にやる力を使い、御方を楽しませよ」

「御方？」

疑問を口に出すが、やはりこちらの質問は向こうが想定した正解以外は答えて貰えないようだ。

なら、必要な事を聞こう。

「頂ける仮面ライダーの力はどの仮面ライダーなんですか？」

「お前に仮面ライダーの世界の力をやろう」

「おうふ」

始めに戻ってしまった。

どうしよう？

すると、また目の前のこいつが喋りだした。

「始まりの舞台は選ばせてやろう」

「ん？行く世界を選ばせてくれると？」

「選ぶが良い」

せっかく選べるなら好きな世界がいい。
でも、特撮世界はなんとなく……うん。

なんとなく止めとこう。

ならアニメの世界だが、どうするか？

「選べぬなら適当な世界に飛ばす」

「いやいやいや!？」

悩んでるだけなので、少し待って下さい!」

ちよつと急かされた。

本当にどうしよう？

んー。

よし!

「でしたら、魔法少女リリカルなのはの世界でお願いします!」

「心得た

今から飛ばす故 精々御方を楽しませよ」

「えと、具体的には?」

「お前に仮面ライダーの世界の力をやろう」

「おうふ」

「どうやら正解以外は最初のセリフが返ってくるらしいな。
仕方ない。」

「わかりました。精進しますから飛ばして下さい。」

覚悟を決めた。

「善哉 ならばはじまりはじまり」

その言葉と共に俺の意識は薄らいでいった。

後に思えば、目の前のこいつの言葉、存在、色々と良く考えれば良かったと後悔しかない。

俺の旅の始まりはそんな後の後悔を作りながらだった。

出会っ……てねえ!

気が付くとそこは海鳴市……ってなれば良かったんだが、病院なのでわからん。

事情を説明するならば別に怪我をした訳でも病気でもない。

ただ単に俺が産まれたての新生児だからだ。

えー。

普通さ、こういう時はさ、御都合主義的にいい年齢で転生して家や生活費が用意されてないか?

いやさ、赤ん坊からとかのケースもたしかにあるが、実際自分が赤ん坊からやり直す事になるとなると非常にめんどくさい。

自己表現すらマトモに出来ない時期が数年あるわけだ。

いや、なんならこの隙に貰った力を確認すれば……って、確認も使い方も、なんなら何のライダーの力かさえ教えてもらってない。

どうしよう?

すると、どうやら俺が考え込んでいたのを見てぐずがる寸前と思っただのか、母親らしき人が俺を抱き抱えてあやしてきた。

「どうしたの？お腹すいたのかな？」

ゆっくりと揺らされながらあやされると、激しく眠気が襲ってくる。
いや、俺はまだかんがえたいのだが………zzzz

はっ!?

どのくらい寝てたのかはわからんが、寝てしまった。

今度は眠らずに頑張つて考えるぞ！

なんて考えてた日から数年。

そりや赤ん坊じやどうしようもないわと諦め今に至ります。

流星に一人で動けないと検証もなにも話にならないわ。

やっと一人で遊ぶ許可が下りたので公園に向かう。

あ。

ちなみに名前は前世と同じ。

小此木 忍だ。

苗字も一緒とか、あのチャックラムもどきがなんかしたのかなとも思うが。

まあ、わかりやすいからいいか。

とりあえず人の少ない公園に行つて能力の検証をしなければ。

どうやらチャックラムもどきの話だと何者かを楽しませなければならぬらしいから、トラブルに巻き込まれるのは確定と思つておいた方がいいだろう。

逆にトラブルを避け過ぎると、面白くないと言われて何をされるかわからない。

奴らの正体もなにもわからないしな。

さて、公園に着いたから検証を……さん？

奥の方のブランコに誰か………!?

あぁー!?

もしかしてなのはか!?

あれ？

士郎さん入院でなのは落ち込む時期今!?

て事は確認忘れてたが今は本編開始前で、俺となのはは大体同じ歳ぐらいって事か………つて最初に確認しないといけない項目!?

おわー☒

ちよつと有り得ないミス過ぎてヘコむ。

とは言え、どうしよう？

いやさ、普通ならここでなのはと友達になって落ち込んだのは助けてつてのが普通なのはわかるさ。

たださ、よくある事やってどうするのかと。

後は本編関わるのは本編開始からでいいかなと。

だから何か手を考えねば。

思案中

思案中

思案中

あ。

俺自身は目立たない様にして色々な人を巻き込んだんじゃお。

ならば即行動だ！

ちよつと先にある人が多めの公園に行き、俺は周りの子供達と遊びながら段々人数を増やしていった。

そして皆であつちの公園行こうぜ！つて誘う。

もちろんお母さん方に許可取って引き連れる。

するかどうかでしよう。

一人で落ち込んでいたなのはをロックオンするや否や、皆に「あそこに誰かいるぞ！

一緒に遊ぶんだ！」と扇動。

そして急に大勢に囲まれたのは戸惑い慌てながらも皆と遊ぶしかなくなるのだ！

ははははは！

これでののはの心も救われ、俺も目立たずに済む！

作戦勝ちじゃあ！

なのは side

私は公園で一人でした。

一人でも大丈夫じゃないといけない。

いい子にしないといけないんだ。

そうしてブランコに座っているとなんか騒がしくなってきたの。

段々近付いてくる。

あの子達なんなんだろう？

凄いいっぱいいるの。

そして近くまで来ると誰かの声が聞こえたの。

「誰かいるぞー！一緒に遊べー！」

すると、その声と同時にそこに居た私と同じ歳ぐらいの子供達が一齐に私の周りに集まってきたの。

「一緒に遊ぼう」

皆からそんな風に話しかけられ、断ろうとしたんだけど断りきれなくて。

皆に引き回されながら遊んでたら悩んでた事も少し楽になった。

そんな皆を見ると皆はある男の子を中心に集まってる様に見えたの。

その子は明るく皆を引き連れて遊んでいた。

多分さっきの声はこの男の子なんだろうなって思ったの。

その日は久しぶりに家までの道が軽く思えた。

家でお母さんに何か嬉しい事でもあった？って聞かれたから、こう答えたの。

「今日、面白い男の子に会ったの！」

なのは side out

ははははは

これで目立たず俺の存在も知られずになのはにいい影響を与えられたはず！

完璧だ！

ははははは……ん?
なんか寒気が……?

なんじやこりやあ!?

なのはを救うために皆で騒いでから1週間。

あれから公園でなのはを見かける度にミツシヨン発動!!となり、皆で遊んできた。

だが、流石にそろそろ貰った力を試して検証しないと、自分の力も分からないままト
ラブルに巻き込まれる事態になったらヤバイ。

そう思った俺はちよつと離れた高台にある公園に来た。

ここならあまり人目にも付くまい。

さて、それはいいのだが、どうやって検証しようか。

元々何のライダーの力を貰ったか教えてもらってないのだから、とりあえず出来そう
な事を試すしかないんだが、そもそも変身に必要なベルトとかすら持っていない。

昭和ライダーやクウガ、アギト辺りは身体からベルトが出現するタイプになるが、平
成ライダー等は大体なにかしらのアイテムが必要だ。

身体変化型の響鬼ですら変身音叉が必要だったり、キバもキバットがいないと変身出
来なかったり。

となるとアイテムが必要無いやつから試せばいいのだが、クウガやアギトは制御出来

る自信がまだ無い。

昭和ライダーはイメージ的に戦闘センスが磨かれていてこそその戦力な気がする。

だからまずは今の状態でも使えるタイプのライダーを試して、成功したらラッキーってしたい。

つまり、身体変化じゃなく、ある程度素人でも戦力を手に入れられるタイプのライダー。

鎧武とかドライブとかがベストか？

んー。

しかし、はたと気付く。

だからベルト無いんだってば☒

どつかから呼び出せるのか、何処かに置いてあるのかはわからんが、とりあえず今は手元に無い。

仕方ない。

1度家に戻るか……と時間を見るために携帯を見た時。

ん？

……へ？

疑問を口に出そうとした時だった。

ベキッ

ズンッ

なんぞ？

前を向くと何やら黒いミノタウロスみたいなのがこつちを見ていた。

……え？

ここつてリリカルなのは世界ちやうのん？

ついエセ関西弁が出たが、流星にこれは混乱する。

いや、ミノタウロスで！

なのもでもライダーでも無いやん！

いや、響鬼なら居てもおかしくないし、デイケイドでリマジ響鬼の世界に牛鬼て居た

けどさ!?

目の前のミノタウロスはこちらを見てゆつくり近付いてくる。

な、なん！

どうしたら!?

と、とりあえずなんか出ろ！

ベルトでもアイテムでもいいから！

ヤケになって両手を前に出した時！

スポン

この出方は無いわあ。

スポンで。

卒業証書入れ引き抜いたんちやうんやから。

心無しか目の前のミノタウロスも唾然としているように見える。

……とにかく出た物確認するか。

これは!?

よく見るとそれはアタツシユケースに入ったファイズギア!

ファイズの力だったのか!

これならある程度使えるはず!

急いで俺はファイズギアを拾うと中からベルトとファイズフォンを取り出して装着。

ファイズフォンのキーを555と入力し空高く掲げた。

「変身!」

声と共にファイズフォンをベルトにセット。

横に倒し定位置にセットすると身体に赤いラインが走る。

そして次の瞬間、俺は仮面ライダーファイズに変身していた。

「よっしやー！」

「guloolooloo！」

俺の気合いの声に対して咆哮をあげたミノタウロスはこちらに突進してくる。

ファイズはパワータイプと言う感じではない。

受け流しながら攻撃し、タイミングを見てトドメの一撃を放つ戦法が合うと思う。

俺はミノタウロスの放つ拳を受け流しながら考える。

今、オートバジンはいない。

呼べば来るかもだが、ミノタウロスの猛攻が凄くて呼ぶ隙が無い。

て事は、ファイズエッジも無いって事だ。

どうやら条件でもあるのか、今はファイズアクセルも無いし、ファイズブラスターなんかどう呼べばいいのかすら分からん。

なら隙を見てファイズポインターで拘束しつつクリムゾンスマッシュを決めるしか

ない！

そう決めるとミノタウロスの後ろに回り込みファイズポインターでポインティング

マーカ―を放つ。

「g u a . g u i i u u」

ミノタウロスは苦しそうにもがきながらもマーカ―によって拘束された。

「これで終わりだ!」

大地を蹴り、空高く跳ぶ。

ミノタウロスに狙いをつけて必殺のキック、クリムゾンスマッシュを放った。

「g a g a g a g a g a g a」

まるでドリルの様にミノタウロスを抉ったクリムゾンスマッシュ。

そして俺はエフェクトと共にミノタウロスの背後に着地。

爆発と青い炎と共に灰となつて崩れ去ると思つていたミノタウロスは爆発もせず、そのままブロックが崩れる様に崩壊すると影に溶ける様に消えていった。

オルフェノクじゃ無いからか?

まあ、考えても分からない事は後にしよう。

そしてフェイスフォンを取り外し変身を解くと身体に違和感がある事に気付く。
手を見れば灰色。

オルフェノクの手に見える。

そうか。

ファイズの力と共に乾巧のウルフォルフェノクの手も手に入れたのか。シヨツクではあるが、まあ、ファイズの力を手に入れられたから仕方ないか。

ん？

それってヤバくないか？

寿命縮まつてるって事じゃね!?

どうしよう!?

……しかし、それにしてもトゲトゲも無いし、ウルフォルフェノクっぽく無いな。ちよつと近くの公衆トイレに人に見付からないように向かう。

そしてトイレの鏡で自分の姿を見た時、俺は今までで1番の衝撃を受けた。

「な……な……なんじゃこりやあー!」

俺が鏡の中に見た姿は……

アークオルフェノクだった。

これはもしかして

俺は鏡を見ながら今までに無いくらい頭を働かせた。

さつき変身したのは仮面ライダー555（ファイズ）。

そして今鏡に写る俺の姿はファイズのラスボスであるアークオルフェノク。

確かにファイズの世界の仮面ライダーはアークオルフェノクを元にして作られた。

しかし、それはアークオルフェノクを守るためであって、アークオルフェノクは仮面ライダーには変身してない。

仮面ライダーの力の大元としてアークオルフェノクの力も授けられた……？

いや、別に一々アークオルフェノクの力を授けなくてもオルフェノクの力さえあればファイズには変身できる。

どういう事だ？

それにさつき……。

俺が考え込んでいると、外から人の気配がし始めた。

人に見つかる前に人間の姿に戻らないと！

戻り方は知らなかったが、少し気合いを入れて戻ろうという気持ちを強くするとなん

とか人間の姿に戻れた。

そしてトイレから出ると談笑しながら歩いてくる女の子達の姿があったが、俺は少し姿を隠すようにしながらそそくさと家に向かうのだった。

なんとか途中で人に見つかること無く家に辿り着いた。

いや、別にもう人間の姿に戻ってるんだし、人目を過剰に気にする必要は無いんだけどね？

変化したのがウルフォルフェノクならまだしも、ラスボスのアークオルフェノクだったからなんとなく少しでも人に知られたらどうなるかって恐怖から必要以上にビクビクしてしまっていた。

しかし、よく見ればかなり服が汚れてるな。

ミノタウロスとは別に私服状態で戦った訳じゃないんだが、もしかしたらココソコ帰って来る時に汚したのかもな。

という訳で、軽く洗濯する事にしたのだが、なぜか異常に汚れが気になり本格的に洗濯してしまった。

軽く洗うだけなら洗濯機に叩き込んで洗剤入れて回すだけでいいはずが、汚れた箇所は洗剤直付けして叩き洗いたり漬け込み洗いしたり。

自分でもなぜこんな拘るか分からなかったが、無性にこの服を真っ白に仕上げたかった。

そして母より綺麗に洗濯できた時、俺は愕然としてしまった。

これはどちらかと言えばプロ並みだ。

仮面ライダーファイズ……洗濯……

あれ？

もしかして仮面ライダーの世界の力ってそういう事？

こうなると思いつく事は一つしかないじゃない。

つまり、これは仮面ライダーファイズに出てくる菊池 啓太郎の洗濯屋としての力。

て事はこれはもしかして、仮面ライダーの世界の力って、仮面ライダーファイズの登場人物の能力を手に入れたって事？

もしそうならかなり戦いが有利になる。

使いこなせればにはなるが。

いや、そうだとするとこれは一体？

俺は疑問を抱きながら手の中にある携帯を見つめた。

確かに朝起きた時は普通の携帯だったはずなのに、ミノタウロスに会う直前に変化していた携帯。

ファイズフォンX（テン）を……。

もしかしてやらかした？

俺はファイズフォンXを手にながら、とりあえず最初に考えるべき事を考え始めた。

即ち、親への言い訳だ。

だつてさ、ちびっこながら持たせて貰った携帯が気が付いたら全然違う物になつてるんだぜ？

俺が親ならどこから手に入れたのか、元の携帯はどうしたのかとか色々気になるに決まつてる。

心配もあるだろうし、セキュリティ的な観点でも気になるだろう。

まさかいつの間にか変わってしまったとか、ライダーの力だ！とかは言えないだろう。

うぬぬ。

どうするべきか……。

しかし、俺の悩みを他所に夕飯時に両親から掛けられた言葉は、

「カッコイイじゃないか」

「新しくなつて良かったわね」

だった。

Why?

どういう事だよパピー、マミー？

……しまった。

驚愕のあまり呼び慣れない呼び方をしてしまった。

とにかく両親はあまり気にしていないらしい。

あまりに疑問が強すぎて真正面から聞いてみた。

「いやさ、いきなり携帯が変わつてて怒らないの？」

すると両親は微笑みながら言う

「お前が他の子とは少し違う事は前から知ってたからね。

お前が産まれた時、普通の子なら泣く場面で私達を真っ直ぐ見つめて、にっこり笑いかけてくれた瞬間から。」

俺はそんな事した記憶は無いが、まあ産まれた瞬間の事をはっきり覚えてるかと言われたら微妙なので、ここは納得しておくしかない。

とりあえず目の前のホンワカした両親は不思議ぐらいでなんとなく納得してくれたみたいだ。

なんとなく釈然とはしないが、無理に説明しなくて済んだだけ良しとするしかないだろう。

ここで説明を無理矢理した所でうまく説明も出来ないし、両親を悲しませるだけかもしれない。

ある程度丸く収まつただけ良しとしよう。

あとはこのファイズフォンXをどうするかだ。

いや、元々俺の携帯だし、普通に使えるみたいだから使うは使うんだが。

まず第一にファイズフォンが別にあるのにファイズフォンXが手元にあるという不思議。

第二にファイズフォンはファイズのギアでいいんだが、ファイズフォンXはファイズの大分後の作品「仮面ライダージオウ」に出てくる未来のギアだ。

まず仕様がジオウのベルト「ジクウドライバー」に対応した物になっている。

とはいえ、ジクウドライバーが無い以上は電話機能とブラスターモードの機能が使えるだけだと思う。

そうなる和本格的に変身に使ったファイズフォンと、俺の携帯が変化したファイズフォンXが同時にここにある意味がわからない。

なぜジオウ関連のギアが？

俺が考え込みながら公園へ向かうと、またブランコになのはが居るのが見えた。
よし。

また周りの子供達を扇動して祭りを……

おや？

なのはがこちらを見て笑顔で走ってくる。

なんぞ？

………あ、転んだ。

なのは side

私は公園でまた1人でいたの。

別にもう寂しくも………無いって言ったら嘘になるの。

でも前よりはかなり気持ちが悪くなった。

あの子が皆と私を引っ張って遊んでくれたから。

あの最初の衝撃の出会いから何度も遊んでくれたの。

だからお礼を言いたい。

でも、公園にいたら必ず会えるわけじゃないし、皆の勢いに圧倒されて毎回話し掛けられないまま解散になっちゃう。

だからなんとか話し掛けるために頑張るの。

そしてふと気付いたらあの子が公園の入口に立っていた。

嬉しくて急いで近づく。

あつ……

バタン

足がもつれて転んでしまった。

恥ずかしくて少し下を向いたまま立ち上がろうとしたら目の前に手が差し出されたの。

「大丈夫？」

あの子が手を差し出してくれた。

あまりに嬉しくて差し出されたその手を両手で握ると真っ直ぐ見つめてお礼を言ったの。

「いつも助けてくれてありがとう！」

彼はそんな私を驚いた様な目で見ていた。

なのは side out

ええと

なぜか転んだなのはに手を貸そうとしたら両手で手を握られてお礼を言われた。
ん？

えと、俺、目立ってないよな？

なぜお礼？

いや、転んで手を貸した事に対するお礼ならまだ分かる。

しかし、なのははいつもって言っていた。

いつも？

もしかして祭り騒ぎの黒幕ってバレてる？

俺、もしかしてやらかした？

何故お前はここにいる

何が原因か、何がきっかけかはわからないが、俺はなのはに祭り騒ぎの黒幕とバレていたらしい。

なんかむつちやお礼言われてニコニコ顔のなのはに両手を握られている。

なのはフアンにとつてかなり嬉しい事態だが、まず俺の状況を整理しよう。

まず、バレずになのはを助ける為に表に出ずに黒幕として祭り騒ぎを起こす。
バレル。

ニコニコ顔で手を握られる。↑今ここ

……ただ単に計画失敗しただけやないかい！

つまり、今俺は計画の失敗と言う現実をなのはの笑顔つて形で見せられているわけだ。

まあ、なのは自身に悪気なんぎ一ミリも無いし、泣き続けるよりは笑っていて欲しいが。

仕方ない。

とりあえずちよつととぼけてみよう。

「いつも？ なんの事かな？」

「いつも皆と一緒に遊んでくれてるの！」

貴方が皆と私を引つ張って遊んでくれたから。

だから、いつもありがとう！」

うん。

ばれてーら。

なのはさん観察眼すごいすな。

って感心してる場合じゃねえ。

どうしよう？

ここで肯定するとなんか本編前からガッツリ関わる事になりそう。

ん？今更だって？

んな事ないさ。為せば成る。

とはいえ、ここで否定しても、なのはの観察眼によりバレてるから意味無いし。

んー。

いつそとぼけまくって変な人判定されてちよつと距離置かれるぐらいが丁度いいか？

なのはに避けられるとか泣けてくるが、なんか一回決めた事を簡単に諦めるのも嫌だ

しな。

とりあえず嫌われるとは決まってるしもっかいとぼけてみよう。

「知らないな。誰かと間違えてないか？」

「絶対に貴方なの！」

キラキラした瞳で見つめながら断言するのは。

まぶ!?

眩しかつ!?

こんな子に嫌われる可能性があるとか吐血しそうじゃー!

と：とりあえずめげずにもっかい。

そしてそのまま一旦退却だ!

「つて言っても知らないからな。」

とりあえず怪我は無さそうで安心したよ。

「じゃあ、俺はここで。」

握られた手を優しく解き、別れを告げると颯爽と帰宅の途につく。

よし!

これで誤魔化せたはず。

次からは祭りの時はより目立たないように気を付けよう。

なのはside

やっと会えた助けてくれた男の子。

でも、彼は自分じゃないなんて言うの。

なんでそんな事をいうのかはわからないけれど、私は間違えたりしないの。

強く絶対に貴方だと言うとなぜか彼は一瞬怯んだような素振りを見せると、ちよつと早口で否定しながら私の握った手を解いて帰ってしまった。

引き留めようと思っただけど、優しく手を解かれたのがなんか嬉しかったのと、彼が帰り際になぜか耳まで真っ赤になっていたのを見て可愛く思えて引き留められなかったの。

うん。

また会えると信じて、次に会った時にもっと、もっと、もーもーつといっぱいお話するの！

私はそう決意して彼が帰る後ろ姿を見ていた。

なのはside out

俺はうまく誤魔化せたと意気揚々と帰宅したのだが、我が家にはまさかの人物が居たのだ。

なぜお前はここにいる

「はじめまして。

私の名前は影山冴子と言います。

よろしくね。」

ロブスターオルフェノク!!

キャラ設定&報告

主人公設定

名前

小此木 忍（おこのぎ しのだ）

年齢

なのはと同じ歳

能力

仮面ライダーの世界の力

詳細

普通の特撮好きなサラリーマンだったが、ある日トラックに轢かれて死亡。

白い世界に連れていかれ、仮面ライダードライブのシグマサーキュラーや仮面ライダーBrack RXのチャックラムの様な見た目の謎の存在により仮面ライダーの世界の力という謎の力を授けられ、「御方を楽しませよ」と命じられる。

転生する世界を選べと言われて特撮と同じくらい好きだった「魔法少女リリカルなのは」の世界を選ぶ。

自分では真面目でしっかりしていると思っているが、実際は良い結果を目指すために突拍子も無い行動に出たり、多数の他人を巻き込むなどの破天荒な一面も目立つ性格をしている。

正義感はある……と自らでは思っているが、目の前の人や分かっている悲劇などを見過ごせないくらいには正義感が強い。

お約束的な当たり前の行動より面白い方に目立たず動こうとするが、案外周りにはバレバレだったり迂闊な部分も多い。

関東生まれだが、なぜかツッコむ時は偶に下手な関西弁が出る。

なのはの世界には居ないはずの黒い怪物を倒すために仮面ライダーファイズに変身して戦うが、携帯がなぜかジオウに出てきたファイズフォンXになっていたり、中身が

ウルフォルフェノクでは無く、アークオルフェノクだったりとまだ謎が多い。

自宅になぜか現れた影山冴子（仮面ライダーファイズでのロボスターオルフェノク）に疑念と警戒、原作を知るが故の軽い恐怖を抱いているようだが……。

能力詳細

仮面ライダーの世界の力

1. 目の前の空間からファイズギアを取り出して仮面ライダーファイズに変身する。
（仮）

2. 携帯がファイズフォンXに変化する（仮）

3. ~~携帯がファイズフォンXに変化する~~
4. ~~携帯がファイズフォンXに変化する~~
5. ~~携帯がファイズフォンXに変化する~~
a n
? ? d
m
o
r
e